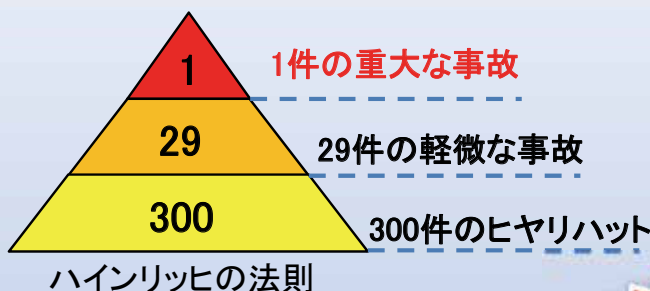
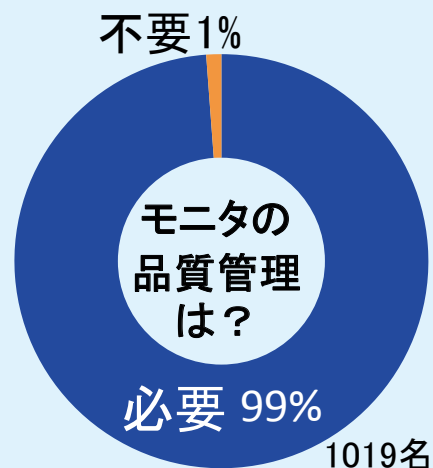
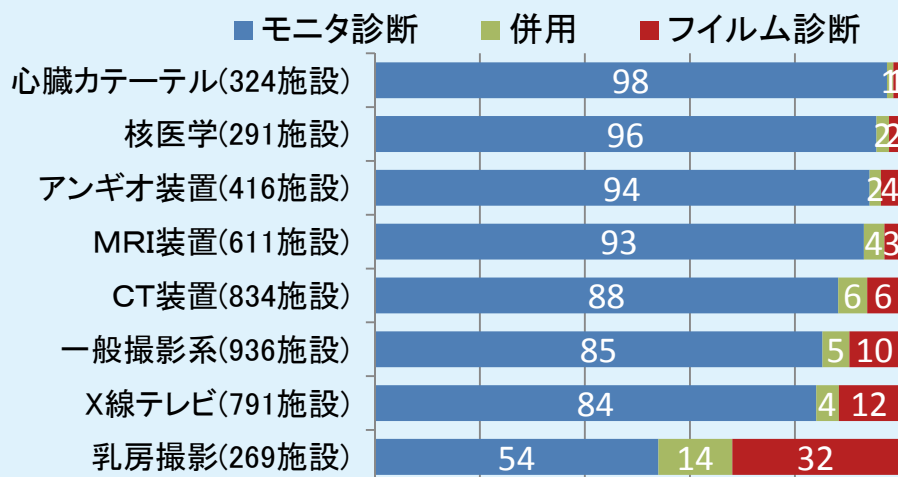


モニタ診断によるヒヤリハットは起きていませんか？

◆モニタ診断と品質管理に関する実態調査 (2014年12月実施)

モニタ診断の普及率(%)



ヒヤリハット

611件

適切な輝度や階調のモニタで診断されていなかった

118件

診断用モニタとその他のモニタで所見が異なった

107件

周りが明るくて必要な箇所が見えにくかった

98件

参照用のモニタ(電子カルテ・コンソール・タブレットなど)で診断し、見落としが懸念された

97件

撮影直後の確認できちんと見えず、再撮影が必要となった

85件

撮影画像に対して適切な解像度のモニタで診断されていなかった

53件

自施設と他施設でのモニタによる診断結果に差が出た

34件

その他

19件

本パンフレットのデータは2014年12月に日本診療放射線技師会(JART)と日本画像医療システム工業会(JIRA)が共同で実施した“モニタ品質管理に関する実態調査”のアンケート結果に基づいております。

アンケート情報

対象：JART 会員

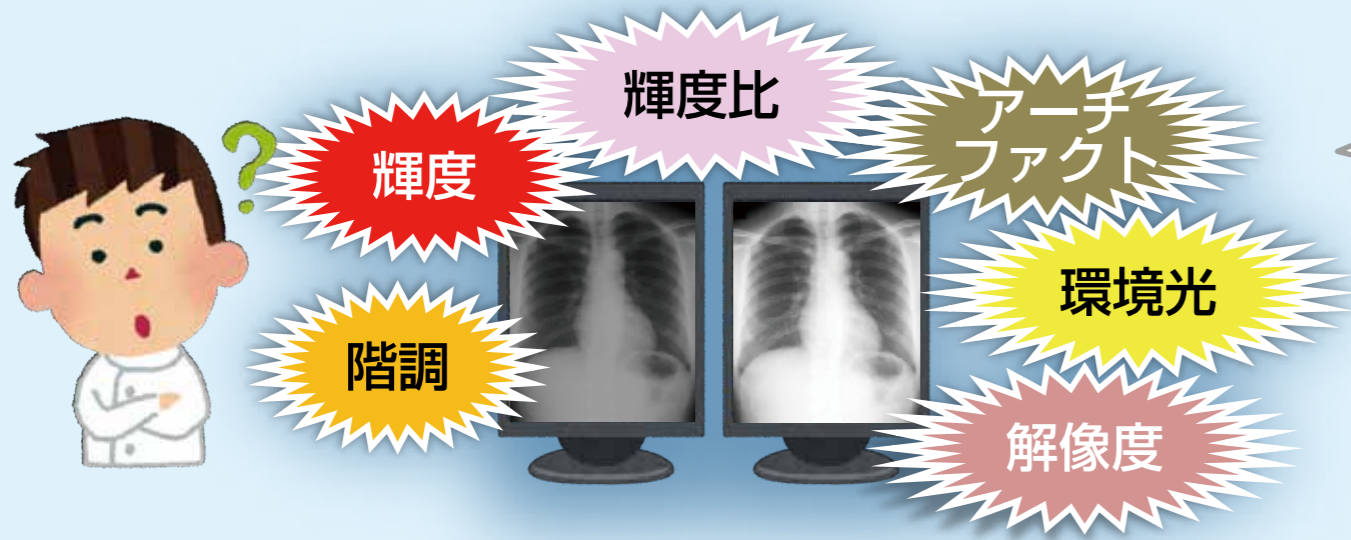
期間：1ヶ月間

回答：1019名

JART

JIRA

モニタ診断によるヒヤリハットを減らすには (ケーススタディとQAガイドライン)



同じ画像データであっても表示するモニタによって、見え方が異なる場合があります。その原因としてモニタの輝度、階調、環境光の影響、解像度の違いなどが考えられます。これらが組み合わさる事で違いが大きくなり、診断結果が異なったり見落としなど重大な事故につながる危険性も否定できません。さらにモニタは経年劣化します。そのため、導入時だけでなく定期的に品質を確認することも重要です。**品質管理を行うことで、モニタの特性を知り、変化をいち早く発見し、ヒヤリハットを減少させることができます。**

ケース3

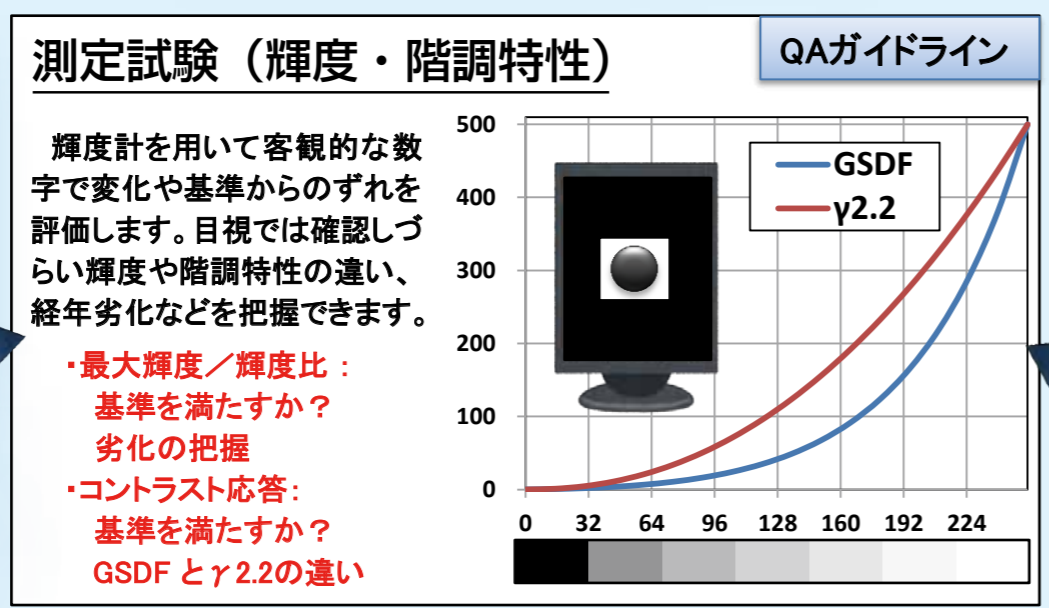
周りが明るくて必要な箇所が見えにくかった

98件

ケース1

適切な輝度や階調のモニタで診断されていなかった

118件



ケース2

診断用モニタとその他のモニタで所見が異なった

107件

目視試験 (テストパターン) QAガイドライン

テストパターンを確認し、主観的な評価を行います。TG18-QCなどを用いて異常な箇所や変化の有無を簡単に確認できます。

- 環境光の影響: 0/5%パッチがみえるか?
- 階調特性の違い: 18段階のパッチの見え方
- アーチファクト: 異常な現象はないか?

TG18-QC

QAガイドライン(JESRA X-0093)とは

JIRAがモニタの品質管理の重要性を認識し、日本医学放射線学会(以下JRS)、日本放射線技術学会(以下JSRT)の協力を得て、2005年に制定した「医用画像表示用モニタの品質管理に関するガイドライン」です。2010年には「JESRA X-0093*A²⁰¹⁰」に改定しました。

詳細はWEBで検索

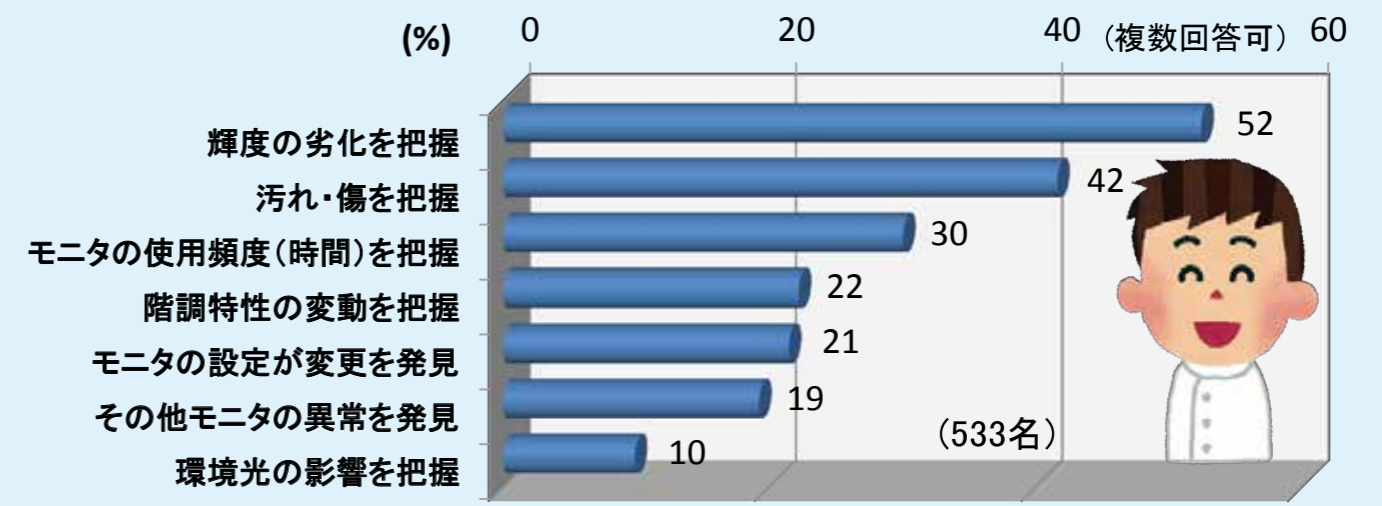
適用範囲: 下記を満たす医用画像表示用モニタ

- 医療機関でモノクロ画像を表示するモノクロモニタ、カラーモニタ
- 表示システムがDICOM PS3.14で規定しているGSDF特性であること

※画像診断行為を行うモニタはQAガイドラインで管理されていることが望ましい。臨床運用についてはJRSの「デジタル画像取り扱いに関するガイドライン」を参照してください。

※「放射線業務の安全の品質管理 マニュアルVersion1」では医用画像表示装置の点検管理方法はJESRA X-0093による管理が必要であると記載があります。

◆モニタ品質管理を実施することで予防につながる発見・把握



実施の効果は多くの方が認識されていることがわかります。**実施してはじめてモニタの違いがわかり、必要性をさらに実感できます。**

JIRAモニタ診断システム委員会の役割と活動

JIRAモニタ診断システム委員会はJARTと共同で実機を使った「モニタ精度管理セミナー」を実施してきました。また、より多くの方にモニタ品質管理の重要性と実態を知ってもらうための広報活動を行ってきました。

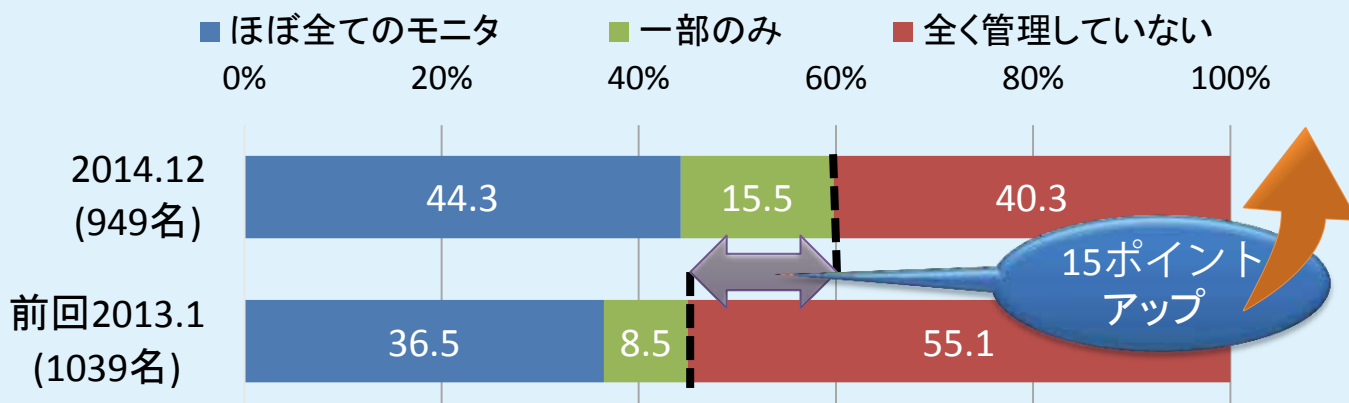


モニタ精度管理セミナー



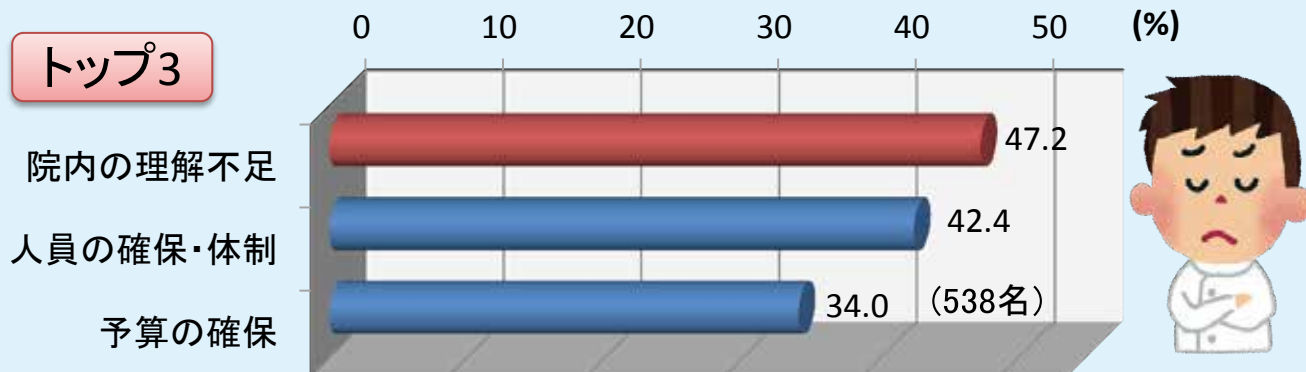
パンフレット

◆モニタの品質管理の実態（診断用モニタ）



前回のモニタ品質管理のアンケートと比較すると、診断用モニタへの実施率は約15ポイントアップしており、活動の成果ととらえております。

◆モニタ品質管理の実施にあたり困っていることは？（複数回答可）



一方で、施設がモニタ品質管理を業務として認めていない場合が多いという課題があります。JIRA モニタ診断システム委員会では、この結果を踏まえ、モニタ品質管理への理解を深めてもらうために学会や業界団体へ働きかけていきます。

謝 辞

第2回 モニタ品質管理に関する実態調査（2014年12月）に協力頂いた JART 中澤靖夫会長、会員の皆様、アンケート実施にご尽力頂いた児玉直樹理事、北村善明先生、関係者の方々に心から感謝の気持ちとお礼を申し上げたく、謝辞にかえさせていただきます。